



## 【今年の夏、図書館でひとつのテーマを極めよう！】

二学期制に変わってから二ヶ月が過ぎました。みなさんはどのように過ごしていますか。

前期と後期の始まりと終わりが10月、前期のうちに夏休みがあるというのは、なんだか不思議な気持ちになります。天気や気温も変わりやすいので、体調に気を付けてください。

今回は『図書館を使った調べる学習コンクール』について紹介します。

### 『図書館を使った調べる学習コンクール』とは？

身近な疑問や普段、不思議に思っていること、自分が興味を持っていることを題材（テーマ）にして、自分で見る・聞いたりする体験や、図書館を使って、どのように調べたのか、調べた結果、何が分かったのかを作品にまとめて応募するコンクールです。今年で29年目になりました。

応募対象は、小学生から大人までです。

### 応募の区分は？

調べる学習コンクールの募集部門は、

【小学生の部（1年生～6年生）】

【中学生の部（1年生～3年生）】

【高校生の部（1年生～3年生）】

【大人の部】

【子どもと大人の部】の5つです。

みなさんは中学生なので、**中学生の部**に応募できます。



### ～応募作品を作るためのプロセス～

- ① テーマを決める（疑問や不思議を探す）
- ② 図書館で調べる
- ③ 他の方法でもっと調べる  
実験や観察を行う、博物館に行く、調べたいことに関連する土地へ行く、インタビューやアンケートを取る、専門家へ質問の手紙を送る 等
- ④書いてまとめる



今号のパスファインダーはこれ！



<自由研究について>

ぜひ参考にしてみてください。

### ～書いてまとめるときのポイント～

作品にまとめるときは、「調べた情報から分かったこと」や「自分の考え」を分けて書くのがポイントです。調べるなかで参考にした情報（本、Web、新聞など）の出典のリストを作品に付ける必要があります。インターネットの情報も使用可能ですが、できる限り一次情報（公的機関や公式サイト等）までさかのぼり、出典元を明記しましょう。調べる学習コンクール公式サイト「参考・引用文献リストの書き方」<https://concours.toshokan.or.jp/concours/reference>も確認してみてください。

水戸市立図書館でも『図書館を使った調べる学習コンクール』は開催していますが、小学生が対象です。

挑戦するときは、今回紹介した全国コンクールに応募しましょう。

夏休みの期間を使って、普段疑問に思っていることや、身の回りにあるテーマをとことん調べて、思い出に残る作品を作ってみませんか。

～テーマ決めて悩んでいるあなたへ～



『調べる学習コンクール』に興味があっても、すぐにテーマが思いつかない人もいます。そんなときは、自分の好きなもの・ことについて、とことん極めてみましょう。好きなものを追求してコンクールに入賞したテーマの一部を紹介します。

レトルトカレー	自分の住む地域の好きな祭り	コケ	海
コーヒー	ピアノ	マンホール	チョコレート

### 【身近なギモンを洗い出すパターンもあります】

青信号は緑色なのになぜ「青」と言うのか	お墓について
草木染めについて	乗り物酔いについて
プラスチックごみ問題	セーラー服について
母校の校章の由来	頭痛の昔と今

### 【テーマ探しに百科事典】

自分の中で気になるキーワードを百科事典で引いてみましょう。みなさんの学校図書館、そして公共図書館には、百科事典が揃っているので、ぜひ活用してみてください。思わぬ発見があるかもしれません。

～自分の作った作品が本になる！？～



桃太郎は英雄ではなく盗人——。その説の真偽を確かめるために、倉持よつばさんは、たくさんの桃太郎に関連する資料を読みくらべて、『桃太郎は盗人なのか？ ——「桃太郎」から考える鬼の正体』という作品を作り上げました。2018年に「調べる学習コンクール」の文部科学大臣賞を受賞したこの作品は、なんと書籍化されたのです。

賞を取ったからと言って、必ずしも本になるとは限りませんが、倉持さんの作品に対する熱意が書籍化につながりました。

この本には続編もあります。倉持さんが桃太郎について調べているうちに浮かび上がってきた「桃太郎はお嫁さんを探しに旅に出た」説を掘り下げていて、とても読み応えのある面白い本です。続編の元になった作品『嫁取り噺「桃太郎」～全国の伝承昔話「桃太郎」を読み比べる～』も、2021年に「調べる学習コンクール」の文部科学大臣賞を受賞しています。

- ・『桃太郎は盗人なのか？ ——「桃太郎」から考える鬼の正体——』 新日本出版社、2019
- ・『桃太郎は嫁探しに行ったのか？』 新日本出版社、2022

この2冊は、調査の仕方や、出典の書き方など、コンクール作品づくりの参考にもなります。ぜひ読んでみてください。

～生成AIは使ってもいいの？～



現在、身の回りには ChatGPT や Microsoft 365 Copilot、Gemini など、様々な生成AIがあります。この生成AI、コンクール応募の作品に使ってもいいのでしょうか？

「調べる学習コンクール」では、限定的ならば使用が可能となっています（公式サイトに記載の通り、調査で使用した部分に出典を明記する必要があります。<https://concours.toshokan.or.jp/faq>）。調べる学習コンクールの受賞作にも、ChatGPTと世界平和についての意見対決をし、ChatGPTにはできない、人が経験や体験を通して、自分で考える力を身につけることの大切さを作品にまとめ上げたものがあります。

(2023年(第27回)応募作品『私 VS チャットGPT ～平和への思いをのせて～』松田 彩希さん)しかし、自分で書かずに、生成した成果物を作品として提出することは不正行為になります。AIに頼らず、自分の力で作品を作り上げましょう。